

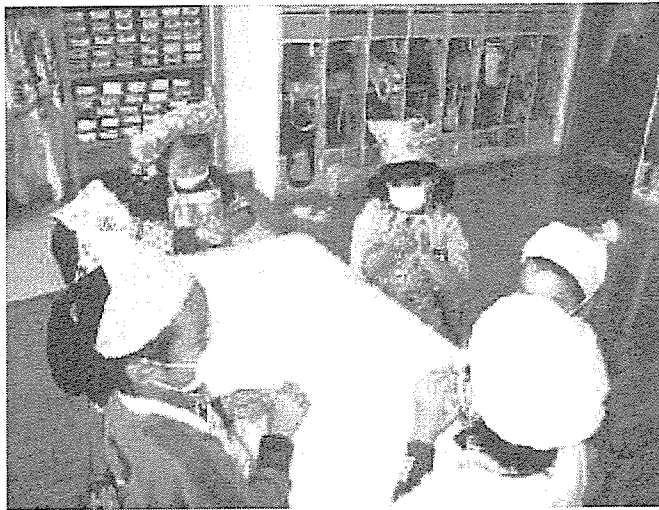


10月 5日 脱穀

手で稲からもみを取りました。すぐにコツをつかんで楽しそうにやっていました。

10月10日 もみすり・精米

ピンと棒を使って、もみがらを取り玄米にしました。その後玄米をけずり白米にしました。



11月14日 ラップおにぎり

5歳児が栽培したお米が入っているご飯でおにぎりを作りました。ほかほか温かくていい匂いがしていました。

ワラを使って
収穫後のワラを使ってコースターづくりをしました。ワラを交互に編むことが難しかったようですが、コツをつかむとあっという間にでき上がり、周りに和紙を貼り素敵なコースターに仕上げました。



③ 評価・反省

クッキングの再開にあたっては担当職員が話し合いをもち、「ねらい」を達成するためには子どもたちにどのような体験が必要なのかを考え、発展性を持たせた年間計画を立てました。

クッキングごとに実施計画を立て、クッキング後にはかかわった職員の意見を吸い上げ反省会をしました。活動内容が子どもの発達に合っていたか、待たせる時間が長くなかったか、職員の動きに問題点はなかったかなどを検討し次年度への課題にしました。

クッキングは縦割りグループで活動しているので、準備や調理の場面などで、子どもがお互いに助け合うことが自然にできるようになりました。

日常保育の中で給食の下ごしらえを取り入れ、より多くの食材に触れたり調理器具の使い方を理解し、上手になると共に、調理員とかかわる場が増えて身近な存在になりました。

栽培では、子どもたちが水やり・雑草とりなどの意味を理解しながら世話を続け、日々生長の変化を目で見たり肌で感じ、様々な発見と命の不思議さを知ることができました。さらに、栽培したものを給食やクッキングの食材に加え味わうこともできました。

年度を越えて活動が継続できるように、3、4歳児が春に収穫できる野菜の栽培を行い、進級してからそれらを食材に使うクッキングへつなげていけるよう配慮しました。

地域の農家の方の協力を得てさつまいも苗植えから収穫までを経験することができました。保育士が「明日はさつまいもを見に行こう！」と声をかけると、子どもたちから「嶋野さんの畑でしょ！」「お芋おおきくなったかなあ？」など期待感あふれる言葉が聞かれ、嶋野さんとの交流を楽しみにする様子も見られました。今年はさつまいもほり以後、交流が少なくなりましたが、さつまいも汁クッキングに招待して会食をしたり、春に向けてジャガイモづくりや上手な夏野菜の育て方のアドバイスなど連携をもっていきたいと思います。

2) 在園児の家庭との連携

保育園と家庭が連携して食育を進められるように取り組んできました。それらは、(1) 掲示物 (2) 毎日の給食の展示 (3) 配布物 (4) 食育講座 (5) 保護者懇談会 (6) その他 などです。

(1) 掲示物

掲示による情報提供は先に述べた“掲示レシピチーム”が担当し、園の玄関を入ってすぐの調理室前の掲示コーナーで行っています。たくさんの方の目に入る場所であり、登降園の際に立ち寄っています。

《ねらい》

- ・子ども、保護者、地域に向けて「食」への興味、関心を高めるような情報を提供する
- ・園の食育の取り組みを伝え、親子のコミュニケーションの場とする

《内容》

- ・毎月の特集（下記参照）
- ・おすすめレシピの紹介
- ・食育BOXの設置
- ・食育ポケットの紹介
- ・調理員との連携により旬の食材の展示、伝統食の由来、レシピの紹介など

次頁 参照

(毎月の特集 H18年度計画表)

月	タイトル	内 容
4・5月	春の食材クイズ	旬の食べ物をクイズ形式にし、写真や説明入りで紹介
6月	子どもにとっておやつとは？	おやつの必要性やどんな物が適しているかを紹介
7・8月	夏の食材クイズ	旬の食べ物をクイズ形式にし、写真や説明入りで紹介
9月	おやつとの与え方	年齢に合った量や与え方のアドバイスなど
10月	食欲ってどうしてわくの？	子どもの食べる意欲を育てるポイントを紹介
11月	朝ごはんはなぜ大事？	朝ごはんは一日の始まりのエネルギー源… など
12月	冬のかぜを予防しよう	かぜの予防やひいてしまった時の対策などを紹介
1月	冬に美味しい食べ物	全国の各地ならではの鍋を特集(レシピ付き)
2・3月	忙しい時の食事づくりの工夫	理想的な朝ごはん、忙しい時の食事づくりのアイデア

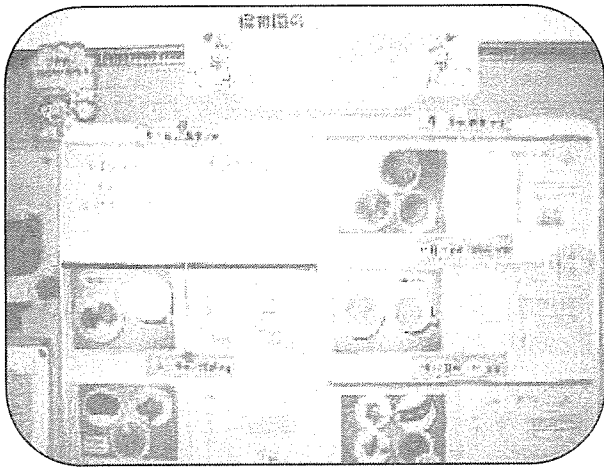
《評価・反省》

掲示コーナーは見やすい位置にあり内容が新しくなるたびに子どもたちが気づき、見たり、ふれたり、関心をもって見えています。気づいた子どもが他の子どもに「変わったよ！」「クイズもあったよ！」と教えたり、めずらしい食材が展示された時には手にとり、匂いをかいだり感触を楽しんでいます。また、職員に「食べたことない！」「どこから持ってきたの？」「どうやって食べるの？」など質問してきます。登降園の際には親子で会話をしながら見ている姿が多くなりました。おすすめレシピコーナーでその日に食べた給食のレシピが用意してあるので、子どもたちが「これおいしかったから作って！」と親にリクエストしています。

掲示コーナーに設置した食育BOXには数が少ないものの、家庭で食事の手伝いや調理に参加したことや、園で植えたさつまいも畑を休日に家族と見に行ったことが寄せられました。食育ポケットは定期的に内容を新しくすることや、見やすくするための工夫がさらに必要と思います。

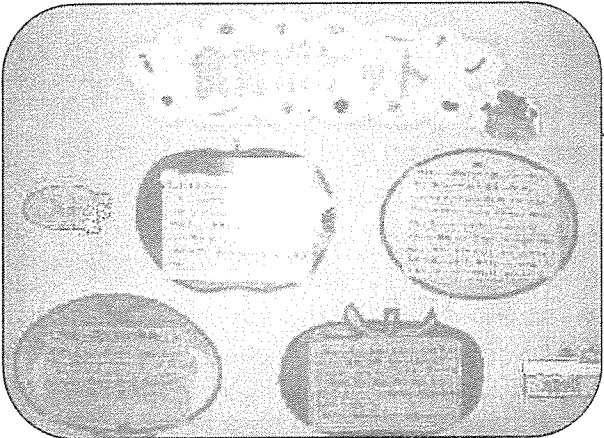
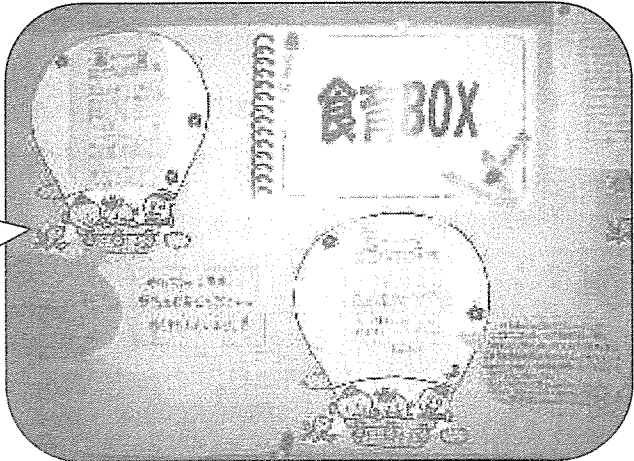
栽培やクッキング、ランチルームの様子など子どもたちの生き生きとした写真やエピソードを紹介したり、タイムリーな話題は早めに掲示していき、見やすい掲示コーナーとなるよう小さなことでも日々改善していきたいと思っています。

保育ウイーク(保護者や地域に向けて、11月の1週間を公開し、催しや展示を行う)では、調理員との連携により、離乳食やその進め方やレシピ等の展示ができました。



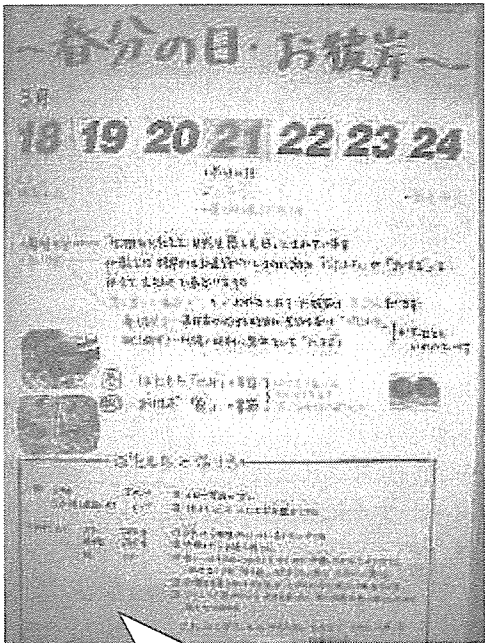
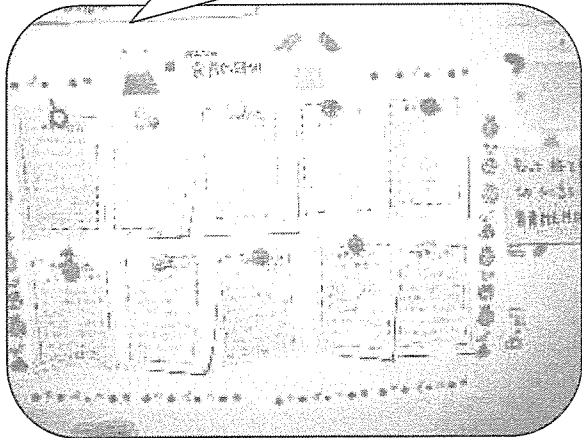
おすすめレシピ
 毎月の給食会議で子どもの喜ぶものや家庭で活用できる献立を選んで提供している。保護者からのリクエストにも応えている

食育BOX
 食に関する保護者からの意見、質問、感想、家庭での様子などを自由に投書してもらい職員とのコミュニケーションをはかっている



食育ポケット
 食育メモの中から子どもの感動や成長、気づきなどを掲示し保護者と共有している

食育メモ
 職員が気づいた子どもの姿、つぶやき、食育の提案や改善点についての情報の共有



伝統食の由来
 春分の日 お彼岸特集

(2) 毎日の給食の展示

献立表とともにおやつや給食の実物を展示することにより、食事内容、分量、栄養価について見て理解できるため、親子のコミュニケーションの場となっています。

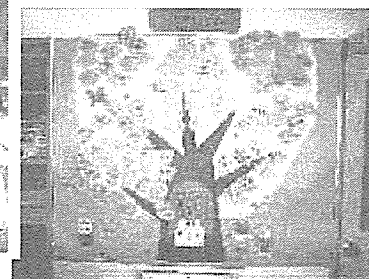
(3) 配布物について

- ・園のたより……平成18年度は6回裏面に食育特集を組みました(資料4参照)
- ・献立表の裏面……毎月、市の栄養士による食育の情報が載っています
- ・クラスだより……栽培や日常の子どもの成長などを載せています

(4) 食育講座

平成18年度は保護者向けに、東京家政学院大学の助教授、酒井治子先生による、食育講座を開催しました。(参加者15名)

内容は、酒井先生が保護者に依頼した食育に関するアンケート結果の報告や、“食べたい意欲を引き出すために”という講演でした。また、会の中で家庭での“おいしく食べるための工夫”について保護者に書いてもらい、それらについてのコメントをいただきました。参加した保護者からは、「食に関する皆様の努力がわかりました。大事な食事について、もう一度考え直してみたいです。」「他の保護者の方々の意見を聞く機会がなかったので、今回こういった場を与えていただき、とても有難かったです」など、参加してとても良かったという感想がたくさん寄せられました。また参加者から出された“おいしく食べるための工夫”を木に見立てて掲示し、参加できなかった保護者にも見られるようにしました。



(5) 保護者懇談会

各クラス年2回行っています。その中で園の取り組みを説明したり、家庭の食事の様子を聞いたり、また、前述の食育プロジェクトメンバーが自分の担当するクラスとは異なるクラスに“朝食の大切さ”の話をする機会をつくりました。担任ではないという新鮮さもあってか、とても真剣に聞き入っていた保護者の姿が印象的でした。また、忙しい朝夕の食事に苦勞されている様子、他の家庭での様子にヒントを得る保護者もあり、懇談会の意義を感じました。

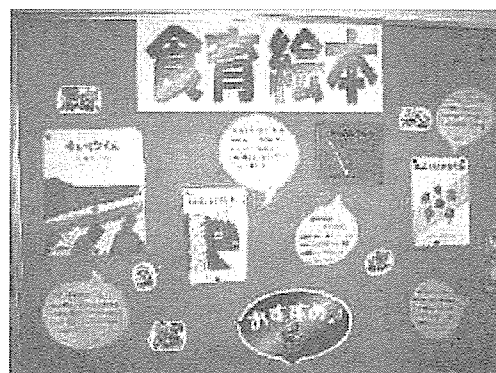
(6) その他

日々の食事のことを含む様子を連絡帳(0、1歳児)やホワイトボード(2～5歳児)で伝えたり、またすくすくカード(2～5歳児、期ごと、保育園から子どもの様子を記入し家庭に配布、その後家庭での様子を記入してもらう)も役立っています。

図書の貸し出しコーナーは以前から関心が高く、利用者が多かったので食育に関する絵本や保護者向けの図書も用意しました。購入する際には職員からアンケートをとり、おすすめの本を選定しました。図書の紹介も工夫し、親子での話題になりやすく、貸し出し数も徐々に増えています。

ホームページには園だより、食育計画、子どもの活動や各チームの取り組みを載せています。

(<http://www.kodomo-shokuiku.jp/>)



《評価・反省》

子ども、家庭、地域に向けて食育の様々な情報を提供し、それぞれに手ごたえを感じています。さらに家庭と連携をはかり感想、質問、意見を引き出せるよう工夫をしていきたいと思っています。

楽しかったね食育!そしてこれから

1年を通して行ってきた食育。子どもたちの中に自然と浸透していて、つぶやきにも変化が見られます。今年度最後の園だよりは、そんな子どもたちのつぶやきをご紹介します。

砂場で遊んでいて...

子:「先生、いいにおいがする!
これはシチューだよ。」
給食室を通るとき...

子:「先生、今日の給食なあ
に?」

調理:「今日はシチューだよ。」
子:「やったー!」

栽培したミニニンジン
を給食に入れてもら
って...

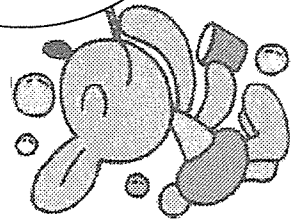
子:「(普通の)にんじんと
比べて)やっぱりミニ
にんじんのほうが
おいしいよ。」



離乳食を食べているお友
だちのところへ、同じ赤1組
の子どもが来て...

子:「もぐもぐもぐもぐ
...。」
もぐもぐすることを伝え
てくれました。

菜の花を見て
子:「プロッコ
リーみたい。」



給食の下ごしらえを手伝
う。給食の時間になり...

子A:「玉ねぎどこかなあ。」
子B:「皮むいたの?」
子A:笑顔でこたえていま
した。



クッキングで作ったさつま汁を食
べた子どもに...
保:「さつま汁おいしかった?」
子:「うん、ほかほかでコタツ
に入った気分だった。」

その日は、おかわりする子どもも
多かったです。

キティまんじゅう
をほっぺに当てて...
子:「先生、あったか
〜い。」



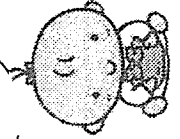
えびが嫌いなBちゃんに
子A:「私もえびが嫌いだ
けど、このえびシユ
ウマイは柔らかく
ておいしかったか
ら食べてごらん。」
子B:「(食べてみて) おい
しい!」



まぐろのケチャップ
和えをおかわりして食
べ、最後の1個になっ
たとき...

子:「大事に食べよー
っと!」

他にもたくさんの子もたちの
姿があります。ホームページにも
掲載されていますので、ぜひ
ご覧ください。



「食」は、特別なものではありません。遊び、睡眠、勉強
などすべての生活とつながりを持っています。子どもたちが
心身ともに成長していけるように「食」を大切にしていきたい
いですね。
卒園していく緑組さんも、これからもっと大きくなってい
く赤組さんたちも、いつまでもおいしく楽しく食と関わって
いってほしいと願っています。

来年度もご家庭と一緒に食育について考えていきたいと思
います。どうぞ、ご意見ご感想をお寄せください。

3) 地域との連携

連携先		農家の嶋野さん	地場野菜「ふるさとの生活技術指導士」の渋谷さん
ねらい		子どもたちがさつま芋の苗植えから教えてもらい、生長を観察し収穫をすることで命の不思議さや大切さを知る 生産者の話を聞き感謝の気持ちをもつ	市内で野菜を生産している人の姿や収穫されたままの野菜を見ることで興味関心をもつ 生産者の話を聞き感謝の気持ちをもつ
内容		嶋野さんにさつま芋の苗植えを見せてもらい、実際に植える。途中の生長を観察する。収穫後さつま汁を作って食べる。	渋谷さんが育てた泥つきの野菜を見せてもらい話を聞く。新鮮な野菜を給食で味わう。
年齢		4、5歳児	3～5歳児
成果	子どもの育ち	広大な畑の様子に感動し、さつま芋の育ちを観察しただけでなく、農家の人の仕事や苦勞を見たり聞いたりすることにより、栽培する人を身近に感じたり野菜に対する興味関心が深まった。	八百屋にも並んでいないような泥つきの野菜を見たり触れたりすることにより、特長や大きさ、重さ、感触、匂いなどを実感して野菜への興味関心が深まった。また、見た野菜と調理後の形態の変化に気づき味わいながら会話を楽しんでいた。
	活動のあり方	昨年までは収穫のみであったが、今年度は、苗植えから取り組み、何度か畑に足を運んで生長の過程を見ることができ、収穫時やクッキングの時に期待を持って臨めた。畑に行くこと、嶋野さんに会うことを楽しみにしておりかわりをもつ良い機会となった。	生産している人からの話は、子どもたちの心に響き、野菜への関心が一段と深まる貴重な機会となった。
課題		子どもたちが育てやすい野菜を聞いたり、見せてもらったりしながら関係を深められるよう計画していきたい。	子どもたちの関心が高く、今後も旬に合わせて計画的に進めていきたい。

《連携のプロセス》

食育を保育の中に取り入れるにあたり、クッキングまでの過程のなかで子どもたちにさつま芋の生長の様子を知ってほしいと考え、例年芋掘りをさせてもらっていた地域の農家の方にアクセスしてみました。快く承諾が得られ、苗植えをするところから体験することができ、何度か畑に出かけて生長の過程を観察することができました。

地域の農家で地場野菜の「ふるさとの生活技術指導士」渋谷さんとの交流は「食育推進モデル事業」として保育課の栄養士から話がありました。地域の農家の方と交流をもち、地元で採れる新鮮な野菜にふれる良い機会になると考え実施しました。

《評価・反省》

さつま芋掘りでは、子どもたちは畑に行き行って話を聞くことを楽しみにするようになり、収穫やクッキングの際に大きな期待を持って臨んでいました。生長過程を実際に見られたことはもちろん、生産している農家の方と直接ふれあえたことが、子どもたちの心により印象深く残ったようです。野菜栽培は、一年を通し継続されていくもので、年度の切り換えのある保育園では先を見越した計画作りと職員間の連携が更に求められると思います。

地場野菜の「ふるさとの生活技術指導士」との交流は、普段食べている野菜を作って販売している人に直接会えたことや、泥つきで新鮮な野菜の迫力は子どもたちにとって新鮮な驚きで、その日の給食にも入っていたので、話題にのせながらおいしそうに食べる姿が日誌からも読みとれました。

地元の農家、保育課、保育園の連携が不可欠ですが、地域とのつながりが希薄化している今こそ、意識して取り入れていくことが求められるのだと思います。今後は、地元で開かれる料理教室への親子参加の呼びかけや、郷土料理(酒まんじゅうの実演など)の紹介などを取り入れたいと考えています。

4) 子育て支援(地域の子育て家庭)にむけて

(1) ねらい

保育園が拠点となり専門的知識や経験、技術を活用して地域の子育て家庭の食に関する不安、負担を軽減し家庭や地域の子育て力を高める。

(2) 活動の実際

● 園行事への参加

地域の親子が誕生会、子ども忘年会、ひなまつり会や地域交流事業の「わくわくらんど」で園児といっしょにあそぶ機会を作り、母親の不安を軽減するよう努めています。食事のしつけ、食事の場面に限らず、生活リズムや十分な運動など子どもの生活全般から食育の助言をしています。母親同士も交流を深めたり、子どもの自然な発達、成長を確認する良い機会となっています。

● 掲示・おすすめレシピ等による情報提供

園庭開放、地域交流事業、一時保育利用時の来園者に掲示コーナーでの情報や給食のおすすめメニューのレシピを提供し、離乳食や偏食などの育児相談につなげています。

● 食に関する育児相談(育児教室・一時保育・来園者)

園庭の開放を毎日実施しており、園児とのふれあいの中で安心したり、気軽に育児相談できる環境を整えています。相談内容は母乳・離乳食、食事のしつけ、栄養、卒乳、偏食、おやつとの与え方など多岐にわたり、近年は母親の育児不安も多く、相談事業は重要な役割を担っています。地域での育児教室、他機関(保健所)と連携した事業(ふれあい親子サロン)、出前保育などでも相談を受け付けています。電話での相談も増えています。

(3) 来年にむけた評価・反省

園庭開放も定着し「掲示コーナーの更新を楽しみにしています」「来るたびにホッとします」など利用している母親からの声があり、リピーターが増えています。一方で母親の情緒が不安定であったり、育児全般の不安が強く、その結果食事にも関心が少ない家庭が増えています。また、核家族化から食生活の基本的な事柄を伝承する役割も保育園が担う必要もあります。保育園の相談、対応の限界もあり、必要に応じて他機関を紹介、仲介するなど連携はいっそう望まれています。

4. まとめ

食育モデル事業を受けて、文京保育園では何ができるのか全職員で取り組みを検討しました。プロジェクトを立ち上げ4つのチーム(乳児ランチ、幼児ランチ、クッキング、掲示・レシピ)に分かれ、連携をとって進めました。食育を進めることは保育の見直しになり、子ども一人ひとりの生活環境や満足できるあそびの保障、職員の子どもに対する関わり方など細かい部分まで見直す良い機会となりました。

年度末にこれまでの保育を振り返り、食育計画の評価・反省を行ってきました。各年齢で具体的に子どもの姿が浮かび上がる中で計画と実践とのズレがわかり、現実にかえらなければならないものや、思った以上に子どもが成長し大幅に見直す部分がありました。この見直しによって、年度当初は全職員に浸透しなかった食育計画も、日々の実践を記録に残しそれを共有することで意識が高まり、職員にとってようやく「わが園の食育計画」になりつつあるように感じます。

この一年で一番変わったのは職員です。食育に関することのアンテナをあちらこちらに張り巡らせ、子どもに伝えたい教材や知識、知恵をしばり出し「食」に対する意識が高まっています。その結果、子どもたちは給食の名前を覚えたり、栽培をとおして自然の恵みに感謝したり生命の大切さを知ったりと、この一年めざましい成長がありました。職員の思いが、子ども、保護者、地域の方へ波動し、着実に「食育の種」をまいています。最近ではホームページを通して文京保育園の食育を評価され、新聞取材や保健所のポスターに採用されたり、他市からの問い合わせ、一般の方からの相談、励ましの手紙もありました。

来年度に向けて、やってきたことを食育計画に照らし合わせ、子どもの発達に即した活動を取り入れながら、保護者への情報提供をすることで、家庭と保育園の掛け橋になり子どもの成長に良い影響が与えられるよう双方で取り組める環境(人・物)をつくりあげていきたいと考えています。

Ⅱ. 相模原市上矢部保育園

1. 保育所の保育目標

〈方針と特色〉

上矢部保育園の子どもたちが都市や自然の中で子どもらしく、のびのびと生活し、めざす子ども像に示すように、意欲をもって自ら考え行動でき、楽しく遊び、おいしく食べる子ども、自然やさまざまな人間関係の中であたたかいふれあいと、思いやりのある子どもに育てていきたいと思えます。子どもは豊かに伸びていく可能性を内に秘めています。その子どもが、今を最も良く生き、望ましい未来を作り出す力と生きる力の基礎を培うため、保育目標を定め、取り組んでいます。[保育計画:資料1-1・2]

- ◇ 養護のいきとどいた環境の中で、健康、安全など生活に必要な基本的な生活習慣(食事、睡眠、排泄、衛生、着脱)や態度を養う。
- ◇ くつろいだ雰囲気の中で、情緒を安定させ、心身の調和的発達を図るとともに、自主、協調などの態度を身につける。
- ◇ 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感や人権を大切にすることを育てる。

〈上矢部保育園の子ども像〉

- ①心身ともに健康な子ども
- ②意欲的に楽しく遊びおいしく食べる子ども
- ③思いやりのある子ども

2. 保育所における食育の計画づくりの方針

1) 食育の位置づけ

〈方針・特色・工夫〉

保育の一環として食育を捉え、生活や遊びを通して「食を営む力の基礎」を培うよう取り組んでいくことを目指しました。つまり保育そのものが「食育」というイメージで捉えて、保育計画、指導計画へ反映させました。

計画づくりにおいては、「食育」をひとつの内容の項目にしたり、食育計画として別に立てたりするのではなく、今ある各年齢の年間指導計画、月の指導計画に食育の視点をふまえた内容に青色のアンダーラインを引いて、食育を意識して保育していくことにしました。そうすることにより、「保育」＝「食育」ということを明確にしなが、保育を通して食育をすすめていくことができます。

〈上矢部保育園の食育の目標〉

- ① たくさん遊んでお腹のすくりズムをつくる
- ② おいしく楽しく食べる
- ③ 食事を通して人とのかかわりを広げる
- ④ 食習慣を身につける

- ◇ 年間活動計画 [資料2-1, 2]
- ◇ 年間指導計画 2歳児[資料3]
- ◇ 年間指導計画 5歳児[資料4]

18年度 保育計画 上矢部保育園

保育目標		①心身ともに健康な子ども ②意欲的に楽しく遊び、おいしく食べる子ども ③思いやりのある子ども			
		3歳	4歳	5歳	6歳
ね ら い		<ul style="list-style-type: none"> 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 身近な環境の中で友だちとのつながりを広げ、遊びや生活を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとのつながりを大切にしながら、集団で活動することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な基本能力を身につけ、仲間の中の一人として自覚や自信がもてるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動の意義をよく理解し、仲間の一人として進んで活動を楽しむ。
	健康	<ul style="list-style-type: none"> 食事、睡眠、衣類の着脱、清潔、排泄を保育士に手助けしてもらいながら、自分でしようとする。 外で十分体を動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることに喜びを持ちながら基本的な生活習慣を身につけていく。 遊具、用具などの使い方を知り、様々な動きを組み合わせる遊び。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の意味やきまりが分かり自分から進んでいく 積極的に関わりを出して遊び、様々な運動器具に進んで取り組み、工夫して遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 体や病気について関心を持ち、健康に必要な習慣や態度を身につける 様々な運動器具や遊具を使い友だちと一緒に工夫して遊びを発展させる 自分の目標に向かって努力し、様々な運動をする
人間 関係		<ul style="list-style-type: none"> 友だちと遊具、用具などを貸したり、借りたり、順番を守ったりして交代しながら遊ぶ。 年上の友だちに遊んでもらったり、模倣して遊んだりする。 地域の人とふれ合うことを喜ぶ。(小中、高校生、老人会との交流) 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。 年下の子に親しみを持ったり、年上の子と積極的に遊ぶ。 自分とは異なる文化を持った人の存在に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を主張するが、相手の意見も受け入れることで、友だちへの親しみを広げ、深めていく。 異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持つ 自分とは異なる文化を持った人に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団遊びの楽しさがわかり、きまりを作ったり、それを守ったりして、遊ぶ。 進んで異年齢の子どもと遠く関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わう。 自分とは異なる文化を持った人に関心を持ち、知ろうとする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 身近な動植物をはじめ、自然事象をよく見たり、触れたりなどして親しみをもち、 コーナー・縦割活動の中に無理なく参加する。 様々な用具、材料に触れ、生活や遊びの中で、身のまわりの物の色、数、形などに興味を持ち違いに気づく 身近な人々の生活や保育園での行事に関心や興味を持ち参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や身近な事象、環境などに触れ、興味や関心を深める。 コーナーや縦割活動の中で楽しく参加する。 身近にある用具、器具に関心を持ち、具体的な体験を通して数や量、形などを比べて楽しむ。 自分のもの、人のものを知り、共同のものに区別が気づき、大切にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会や自然の環境と触れ合う自分たちの生活との関係に気づき、それを取り入れて遊ぶ。 コーナー・縦割活動の中に意欲的に参加する。 身近な用具、器具などに興味を持ち、その仕組みや性質に関心を持つ。 身近な物を大切に扱い、自分の持ち物を整頓する。 身近な人々の生活や保育園での行事に関心や興味を持ち、進んで参加する。 生活の中で、位置の違いや時刻、時間に興味や関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会や自然の環境に自ら関わり生活経験を広げる。 身近にある事象の働きや仕組み、性質に興味関心を持ち、考えたり、試したり、工夫する。 具体的な体験を通して、数、量、形、位置、時間などの感覚が無理なく養われる。
言葉		<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに必要な言葉を使ったり自分の思ったこと、感じたことを言葉に表し、保育士や友だちとのやりとりを楽しむ。 絵本や童話などの内容がわかりイメージを持って楽しんで聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに必要な挨拶や要求を自分なりに言葉で返事をし、保育士や友だちと会話を楽しむ。 絵本や童話などを読み聞かせてもらい、イメージを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で話しかけや問いかけに対し適切に対応し、考えたことを、経験したことを保育士や友だちに話して会話を楽しむ。 絵本や童話の読み聞かせから、その内容を自ら表現したり、言葉の美しさ、おもしろさに興味を持つ。 生活に必要な簡単な文字や記号などに関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の挨拶、伝言、質問、応答、報告が上手になり、みんなで共通の話題について話し合う。 童話や詩などの中での言葉のおもしろさ、美しさに気づき自ら使って楽しむ 身近にある文字や記号などに興味や関心を持ち、それを使おうとする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの様々なものの音、色、形、感触、動きなどに気づく。 様々な機材や用具を使って、好きなように描いたり、扱ったり、形を作ったりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なものの音、色、形、感触、動きなどに気づき、驚いたり感動したりする。 感じたこと、思ったことや想像したことなどを様々な素材や用具を使って自由に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な形、色、感触、動きなどを周りのものの中で気づいたり、見つけたりして楽しむ。 友だちと一緒に描いたり、作ったりすることや、身のまわりを美しく飾ることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な形、色、感触、動きなどに気づき、感動したこと、発見したことを創造的に表現する。 感じたこと、想像したことを言葉や体、音楽、造形などの自由な方法で、様々な表現を楽しむ。

18年度 保育計画 上矢部保育園

保育目標 ①心身ともに健康な子ども ②意欲的に楽しく遊び、おいしく食べる子ども ③思いやりのある子ども							
6か月未満		1歳3か月未満		2歳未満		2歳	
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境を作り、常に体の状態を細かく観察し、快適に生活できるようにする。 ・安心できる人的、物的環境のもとで聞く見る触れるなど感覚の動きが豊かになるようにする。 ・一人ひとりの子どもの生活リズムを補償しながら心身共に快適な状況を作り、情緒の安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・安全で活動しやすい環境の中で、身体的な活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育士の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心をもち、関わろうとする ・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人ひとりの子どもの欲求を満たし生命の保持と情緒の安定を図る。 ・食事排泄などの簡単な身の回りの活動を、自分でしようとする。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容的な関わりにより、気持ちのよい生活できるようにする。 * 安心して眠る。 (常に状態を把握する) * ゆったりと、ミルクを飲む。 * 一人ひとりの子どもの状態に応じて離乳食を開始する。 * 清潔に過ごす * おむつを取り替えてもらい心地よさを感じる。 ・環境を整える * 保育室の温度、湿度、換気 * 衣類、寝具、玩具などの点検 * 備品の配置と工夫 * 発達に合った玩具選び ・個々の子どもの健康状態、発達の状態を把握し、家庭との連携をとりながら個人差に応じて保育する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食を進め様々な食品にふれさせながら幼児食への移行を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの気持ちを理解し受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ・食事、排泄、着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちを持てるようにする。 ・子どもの状態に応じて、睡眠など適切な休息をとる。 ・楽しい雰囲気の中で、スプーン・フォークを使って一人で食べようとする気持ちをもてるようにする。 ・おむつが汚れていない時に便器に座り、便器での排泄にも少しずつ慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に手助けしてもらいながら、排泄、着脱などの身の回りの活動を自分でしようとする ・落ち着いた雰囲気の中で十分に眠る ・楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを持たせ、いろいろな物が食べられるようにする。 ・自分からあるいは言葉をかけてもらうなどしてトイレへ行き、保育士が見守る中で自分で排泄する。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・遊べる遊べる環境を整える * 保育室の温度、湿度、換気 * 衣類、寝具、玩具などの点検 * 備品の配置と工夫 * 発達に合った玩具選び ・個々の子どもの健康状態、発達の状態を把握し、家庭との連携をとりながら個人差に応じて保育する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢の特徴として ・子ども同士のぶつかり合いが多いので、お互いの気持ちを受け入れ、関わり方を根気よく知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢の特徴として ・自我が育ち、反抗や自己主張をするようになるので、子どもの気持ちを受け入れ関わり方を根気よく知らせていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや要求を言葉や行動で表し、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。 ・走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなどの全身を使った運動遊びや、つまむ、丸める、めくるなどの手や指をつかう遊びを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を楽しんでみたり聞いたり、くりかえしのあることばの模倣を楽しむ。 ・簡単な歌や手遊び、リズム遊びを楽しむ。 ・身の回りの自然などに触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・やさしく語りかけてもらったり、歌いかけられたり、泣き声や喃語に応じてもらいながら、保育士との関わりを楽しむものにする。 ・立位でだかかれたり、屈伸、腹ばいなど体位をかえてもらって、遊びを楽しむ ・やさしく言葉をかけてもらいながら、聞いたり、見たり、触ったりできる玩具などで遊びを楽しむ。 ・戸外で外気浴や風などの刺激を喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・喃語や片言をやさしく受けとめてもらい発語や保育士とのやりとりを楽しむ ・寝返り、はいはい、お座り、伝え歩き、立つ、歩くなどそれぞれの子どもにあった活動を十分に行う。 ・つまむ、たたく、ひっぱるなどの感覚遊びを楽しむ。 ・保育士に見守られ、安心して玩具や身の回りの物で一人遊びや探索行動を楽しむ。 ・保育士の歌を聞いたり、歌やリズムに合わせて、手足や体を動かすことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の語りかけを喜んだり、自分から片言でしゃべることを楽しむ。 ・登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、ひっぱるなどの運動を取り入れた遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 ・保育士に見守られ、外遊び、一人遊びを十分に楽しむ。 ・興味ある絵本を保育士と一緒にみながら簡単なことばのくりかえしや模倣したりしてあそぶ。 ・保育士と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。 ・保育士と一緒に水、砂、紙、クレヨン、粘土などの素材に触れて楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや要求を言葉や行動で表し、生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しむ。 ・走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなどの全身を使った運動遊びや、つまむ、丸める、めくるなどの手や指をつかう遊びを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を楽しんでみたり聞いたり、くりかえしのあることばの模倣を楽しむ。 ・簡単な歌や手遊び、リズム遊びを楽しむ。 ・身の回りの自然などに触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ。 				

H18年度 上矢部保育園 年間活動計画

資料2-1

	保育		クッキング	家庭への発信
		行事		
4月	各クラスの保育	誕生会 クラス懇談会		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだより ・レシピ提供 ・園だより ・給食サンプル展示 ・食育に関する本の貸し出し
5月		誕生会 遠足(各クラス) 尿・ぎょう虫卵検査		<ul style="list-style-type: none"> ・モグパク掲示板(4歳児の悩みなげかけ) ⇒食事のマナーの呼びかけ ・レシピ提供 ・園だより ・オープンだより
6月		誕生会 健康診断 公開保育と 給食試食会 歯科健診		<ul style="list-style-type: none"> ・モグパク掲示板(4歳児の悩みなげかけ) ・レシピ提供 ・園だより ・オープンだより ・食育だより ・食器、食具、弁当箱などの展示
7月		誕生会 七夕まつり 夏あそび		<ul style="list-style-type: none"> ・モグパク掲示板(4歳児の悩みなげかけ) ⇒食事の様子経過 ・レシピ提供 ・園だより ・オープンだより ・職員レシピ掲示
8月		誕生会		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回モニター募集 ・レシピ提供 ・園だより ・オープンだより
9月		プール閉い 誕生会		<ul style="list-style-type: none"> ・レシピ提供 ・園だより
10月	地場野菜を 食べよう	運動会 遠足(各クラス) 誕生会 健康診断	べっこうあめ (5歳児) ラップおにぎり (3歳児)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員レシピ掲示 ・レシピ提供 ・園だより ・オープンだより ・ホームページ作成
11月		保育ウィーク 誕生会 歯科健診		<ul style="list-style-type: none"> ・箸の展示 ・レシピ提供 ・園だより ・ホームページ作成

	保育		クッキング	家庭への発信
		行事		
12月	各クラスの保育	誕生会 おたのしみ会 子ども忘年会	ハンバーガー (5歳児) ポップコーン (4歳児) 野菜チップ (3歳児) ラップおにぎり (2歳児) ケーキクリーム しばり (0, 1歳児)	・レシピ提供 ・園だより ・ホームページ作成 ・第2回モニター募集 ・オープンだより
1月		懇談会と おやつ試食会 誕生会	うどん (5歳児) ホットケーキ (4歳児)	・レシピ提供 ・園だより ・ホームページ作成 ・オープンだより ・おやつ試食会 ・ごちそうさま通信の掲示
2月		豆まき お店屋さんごっこ 誕生会	スコーン (5歳児) おだんご (3歳児) ゼリーのクリーム しばり (2歳児) むしばんの ソースがけ (0, 1歳児) クッキー (4歳児)	・レシピ提供 ・園だより ・ホームページ作成 ・食育だより ・職員レシピ掲示 ・給食室へのQ&A
3月		ひなまつり誕生会 お別れ遠足 お別れ会 卒園式	ちらしずし (5歳児)	・モグパク掲示板(まとめ) ・レシピ提供 ・園だより ・オープンだより ・ホームページ作成

* 各クラスの保育は資料2-②～⑦の活動実績の欄参照

* は新たに取り組んだ項目

18年度 年間指導計画(2歳児)

年 間 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士とのかかわりの中で、一人ひとりの欲求を満たしながら、快適な園生活を送れるようにする ・身の回りの簡単なことを自分でやろうとする意欲を育て、生活習慣の自立を促す ・保育士や友だちと一緒に楽しく食事ができるようにする ・保育士や友だちとかかわりながら、色々なことを経験し、運動能力を伸ばしたり、表現遊びを楽しむ 			
期	月	ねらい	内容 (子どもの姿)	活動の実績
I 期	4 月 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に少しずつ慣れ、安定して過ごせるようにする ・保育士に見守られながら、好きな遊びを見つけて楽しむ ・<u>戸外や自然の中で体を動かして遊ぶことを楽しむ</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場に慣れ、園生活のリズムを少しずつ身につけていく ・自分の持ち物や置く場所がわかり、保育士と一緒に始末する ・<u>のびのびと体を動かして遊び</u>、表現する楽しさを味わう ・戸外の開放的な雰囲気の中で、<u>虫や植物などに触れてあそぶ</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培 (ピーマン・ナス) ・食事の配膳
II 期	6 月 5 月 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の開放的な遊びを通して、友だちとのふれあいを楽しむ ・自己主張しながら友だちとの関係を楽しむ ・保育士に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でやろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>水、砂、土などに触れ</u>、保育士や友だちと一緒にいろいろな夏の遊びを楽しむ ・好きな友だちと一緒に遊んだり、ぶつかり合いを通して友だちの存在を意識しはじめる ・簡単な衣服は自分で脱いだり、着たりしようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会 ・試食会速報作成・配布 ・水あそび ・保育士と一緒に給食を食べる ・野菜を収穫し、調理して食べる
III 期	9 月 5 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られ、身の回りのことを一人で作ろうとする ・友だちと関わりながら<u>のびのびと体を動かして遊ぶ</u>中で、いろいろな行事に参加し、表現する楽しさを経験する ・友だちとの遊びの中で、思いを言葉で伝えようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の前後がわかり、裏返しを直してたたんだりする ・音楽に合わせて<u>体を動かす</u>ことを楽しんで、自由に表現する ・保育士や友だちと<u>絵本や紙芝居に親しみ</u>、言葉の繰り返しや模倣遊びを楽しむ ・手遊びやひも通しなど、指先を使った遊びを楽しむ ・危険な行為や場所を知り、ある程度の見通しを持って行動しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・保育ウィーク ・遠足 ・おたのしみ会 ・おにぎりを食べる ・箸あそび ・クッキング ・ラップおにぎり ・モニター第1回募集
IV 期	1 月 5 月 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことが一人のできることに喜びを感じる ・好きな遊びに集中して取り組んだり、保育者や友だちと一緒にごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しむ ・<u>はしを使って上手にごはんを食べる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>パンツやズボンを全部脱がず</u>に一人で排泄する ・自分の持ち物をロッカーに片付ける ・制作を通し、折り紙、のり、はさみなどの素材や用具に興味を持ち、いろいろな表現を楽しむ ・衣服の着脱や排泄、食事、手洗いなどを自分でしようとする ・異年齢児に対する関心を持ち、進級を楽しみにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんごっこ ・おやつ試食会 ・試食会速報作成・配布 ・クッキング ・ゼリーのクリームしぼり ・ケーキバイキング ・箸スタート ・モニター第2回募集

18年度 年間指導計画(5歳児)

年間計画		<ul style="list-style-type: none"> ・園生活を楽しみながら、自主的に行動し、基本的な生活習慣や態度を身につける ・クラスの友だちや異年齢児との関わりの中で、思いやりの心を育て、協力する態度を養う ・自然や身近な事象に興味や関心を持ち、感性を豊かにすると共に、知的好奇心を高める ・様々な体験をし、感じたこと、想像したことを言葉や体、音楽、造形など自由な方法で表現し、想像力、表現力を養う 		
期	月	ねらい	内容 (子どもの姿)	活動の実績
I 期	4 月 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児になったことを喜び、意欲的に園生活に取り組む ・新しい環境になれ、自分のしたい遊びをみつけて、友だちとのつながりを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動を理解し、積極的に取り組む ・健康に関心を持ち、マナーを守って友だちと楽しく食べる ・野菜や花を植え、愛情をこめて世話をする ・人の話を注意して聞き、人にもわかるように話す ・絵本や紙芝居などに親しみ、その面白さがわかり、想像して楽しむ ・安全に気をつけて、用具や道具、玩具などを正しく使う ・たてわりグループをつくり、年長児としての自覚を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・たけのこ見学 ・お花見 ・栽培 (ナス・ピーマン・えだまめ) ・あさがお種まき ・遠足 ・ランチ当番開始 ・誕生会食会
II 期	6 月 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと考えを出し合いながら、遊びを広げて楽しむ ・野菜や花の世話を通して、成長に関心を持ったり、疑問をもつ ・全身を使って、夏ならではの遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体と食べ物の関係に関心を持ち、食事をする ・自分たちで育てた野菜を収穫する喜びを味わいながら食する ・夏の生活の仕方がわかり、自分からしようとす ・ルールを守りながら、夏の遊びを思い切り楽しむ ・友だちとルールを相談したり、友だちの遊びを取り入れたりしながら集団遊びを楽しむ ・遊びに必要な物を考えたり、作ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会 ・試食会速報作成・配布 ・プールあそび ・野菜のみずやり、収穫 ・収穫した野菜を食べる ・あさがおでの色水遊び
III 期	9 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力しながら集団での活動に取り組み充実感を味わう ・生活や遊びの中で、聞か力や表現する力を豊かにする ・行事を通して異年齢児の関わりを深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な運動用具を安全に使い、意欲的に取り組む(とびばこ・鉄棒・なわとびなど) ・食べ物の働きを理解し、好き嫌いをしないで食べようとする ・経験したこと、想像したことを色々な方法で自由に表現したり、演じたりして楽しむ ・歌うことを楽しみ、色々な曲をのびのびと歌う ・行事を通して、様々な人との関わりや、仲間意識を深める ・春咲きの球根を植える 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会・保育ウイーク ・遠足・おたのしみ会 ・モニター第1回募集 ・クッキング ・べっこうあめ ・ハンバーガー ・あさがお種取りとつるのリース作り ・職員レシピ紹介 ・地場野菜を食べる ・野菜水栽培 (にんじん・わけぎ・じゃがいも)
IV 期	1 月 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けて期待を持ち、見通しや目標を持って、意欲的に活動に取り組む ・仲間意識を深め合ったり、協力したりしながら社会生活に必要な能力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと楽しく30分位で食べられるようになる ・寒さに負けず十分に身体を動かし、冬の遊びを楽しむ ・文字や数、時間に興味をもち、遊びに取り入れる(郵便ごっこなど) ・楽しみながらお店屋さんごっこの品物作りをする ・小学校を見学して就学への期待を持つ ・人の話を注意して聞き、自分の意思を言葉で伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング ・うどん ・スコーン ・ちらしずし ・お店屋さんごっこ ・おやつ試食会 ・試食会速報作成・配布 ・お別れ遠足 ・モニター第2回募集 ・保育の友

〈実践の中で見直した点〉

年間活動計画は4月当初の子どもの姿を見通して立案しましたが、子どもの変化や成長や保育をすすめる中で予想を上回る子どもの反響などから、計画と実際の子どもの姿にズレが生じました。それにより月の指導計画において子どもの今の姿を捉えて具体的に内容を修正しながら計画を立て保育を行いました。

食育モデル園ということで、外部機関からの食育に関する取り組みへの誘いもあり、計画にはない新たな取り組みの実施がありました。そこで外部との連携をとり、保育に取り入れ、計画、実施をしました。その時の子どもたちの姿を捉え、機会を活かして保育に取り入れたことで、子どもたちの育ちにまたあらたな原動力を与えることにつながりました。

2) 職員間の協力体制作りの工夫

0・1歳児、2歳児、3歳児、4・5歳児クラスと事務室から1名ずつ、計5名で構成する食育実行委員会を主導とし、企画、調整、伝達、実行等の役割を担いました。食育実行委員会のメンバーが園長・副園長、クラス担任、給食調理員、保育課栄養士とのパイプ役となることで連携を深め、全体の食育を効率的にすすめることができました。

クラスの中での連携は、複数担任の場合、計画作りの段階で子どもの成長、発達、食事のすすみ具合などを確認し、大枠の計画の打ち合わせをし、担当者が計画書を作成し、互いに確認しながら一貫した取り組みができるようにしました。

0・1歳児クラスにおいては、食事のすすみ具合や好き嫌いの有無などを食事後すぐに声に出して伝えるようにしました。食事時間での職員の係分担とポジションを決め、子どものそばにつく職員がなるべく動かずに食事指導ができるようにしました。

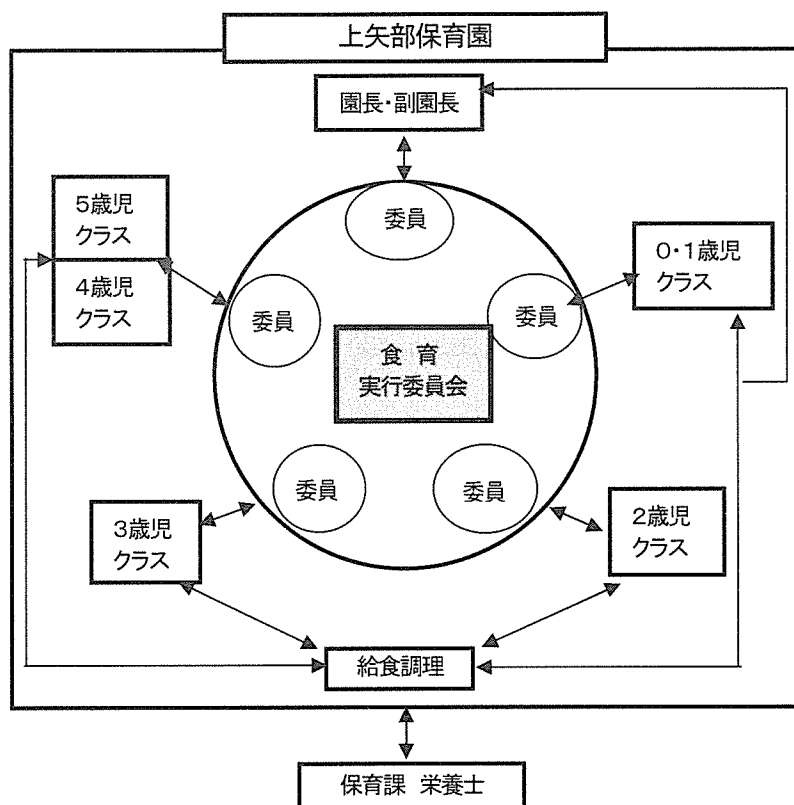
2歳児クラスにおいては、職員の動きを最小限し、係分担をし、ポジション(準備配膳・手洗い・子どもの援助・子どもへの導入)を決めて子どもに関わるように工夫しました。

3歳児クラスにおいては、子どもの変化や気づきを捉えて、常に情報交換をしながら、計画に反映していくようにしました。2人担任のためクッキングの際には計画書を立案した職員が保育をリードし、もう一人の職員がフォローしていく方法をとりました。

4歳児と5歳児クラスにおいては、ランチルームでの食事のため、年齢、発達に合わせて環境をつくり、その都度職員同士で子どもの変化や気づきを話し合い、共通理解をしました。

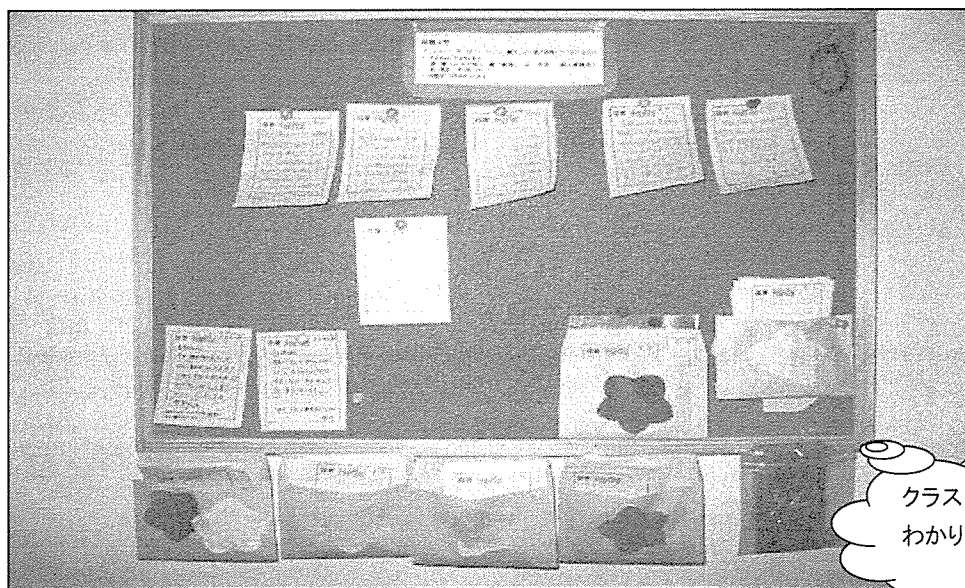
保育室と給食室との連携は、ランチルームにおけるバイキングの方法(トングの種類や主菜等の並べ方etc.)や配膳、各クラスでのメニューによつてのクラス配膳、給食・手洗い指導、クッキングにおいて、保育士との打ち合わせや声の掛け合いをしながら、スムーズに行えるようにしました。

保育士と栄養士との連携は、給食やおやつの試食会でのメニュー決めやクッキング活動においてのメニュー決めや実施において、助言、相談ができるようにコミュニケーションをとりながらすすめました。5歳児のクッキングのメニュー決めでは、子どもたちの話し合いに栄養士が参加し、子どもたちにわかりやすいようにできることとできないこと等を説明してもらいました。その後のクッキングにおいても一緒に調理を体験し、栄養士のことを「〇〇さん」と名前を覚え、親しむ子どもたちの姿がありました。



職員全体(正規職員、臨時職員、非常勤職員)の連携の工夫として、「保育メモボード」を設置し、保育の中で印象に残った子どもの姿やつぶやきを「保育メモ」に書き、保育士室のコルクボードにはりつけ、職員間で共有、共感できるようにしました。

☆保育メモボード



保育メモ ○月◇日
Mくん
今日も誰も何も行っていないのに、自分でコップを両手で持ち、牛乳を飲みました！
「ちょーだい」と言い、おかわりもしましたよ。
感動☆☆☆☆
コップ、おわんに口をつけるのも嫌がっていたのに・・・
N保育士

保育メモ ○月◇日
おみせやさんごっこをしていると、M子ちゃんが「いちごジュースありますよ！」と売りにきたので、「じゃあいちごオレください」と保育士が注文した時、近くにいたHくんが「オレじゃないよ！ボクでしょ!？」と一言。人の話を良く聞いていることに感心☆
K保育士

3. 保育所における食育プログラムの実施内容と評価・改善

1) 子どもの食育

(1) 食物アレルギーの子どもへの食事

〈0歳児〉

① ねらい

医師の指示に従って、アレルギー食品を除去し、アナフィラキシーを起こさないようにする。

② 活動の実際


● 内容

診断書、指示書に従い、除去食品を保護者と確認する。

園内関係者で対応を協議し、結果を保護者に伝え、協力を依頼する。

安全対策の方法を具体化し、実施する。

● 実施記録

月 日	子どもの姿	働きかけと配慮
4月12日	・離乳食後、顔の腫れ、赤みがひどくなり、受診する。 小麦、卵、牛乳によるアナフィラキシーの可能性があると診断される。	
4月25日	・受診後、初めて登園する。 口の周りが赤く、かゆがっている。 ・アレルギー食のトレーで食べているが、他の子の食事や床に落ちているものも口に入れようとする。 ・汁物の塩分で、口元の赤み、かゆみがひどくなる。 ・テーブルを分けて、みんなと離れて食べることもあるが、気持ちの動揺もなく今のところよく食べている。	・離乳食は職員と1対1で食べさせるようにし、他児のもの間違えないようにする。 ・食後はすぐに食べ物の落ちていない別の場所のサークル内に移動して活動する。 ・食後はよく口を拭き、処方された塗り薬を塗る。 ・清浄綿で拭き、清潔にする。
10月2日	・食事をしている途中で、顔が赤く腫れ、かゆがり、自分でかいてしまう。アナフィラキシーを起こす。 ・血液検査の結果、卵以外のアレルギー反応の値は低くなっており、新たなアレルギーはなかった。	・保護者と主治医に連絡をとり、タクシーにて主治医のいる病院へ向かう。主治医より、病院へ向かう途中で、せい鳴を起こしたらすぐに救急車を呼び、乗り換えるようにするよう指示を受ける。
10月5日	・顔の赤みも減り、登園する。 《別室での食事の様子》 	・本児のみ別室にて食事(おやつ等)を摂るようにする。食事中、食後の様子を観察し、異常がないか確認する。 ・家庭との連絡をこまめに行えるよう確認する。 ・クラスの他児の服についた食事を1カ所できれいに落とし、食事の場所以外で食べ物が落ちないようにする。
10月6日	・保護者に献立表に除去する食品、食材をチェックしてもらい、除去するものをすぐに確認できるように、給食室と保育室で保管する。	・食事を中断してタオルで顔をよく拭く。 ・保護者に連絡をとり、食事をアレルギー用ベビーフードに変更する。 ・食事後本児が別室から皆のいる保育室へ入る際、抱っこやすぐそばに保育士が付き添い、食べ物の落ちていない別の場所のサークル内に移動する。
12月2日	・食事中に顔が赤くなりかゆがる。	・本児が早朝・延長保育を行っているため、延長保育でのおやつでの誤食にも細心の注意をはらい、全職員に周知する。保育終了後と保育開始時にも室内に食べ物が落ちていないか十分に確認をし、朝の受け入れをする。

③ 評価・反省

本児へのアレルギー食への取り組みは、常に本児の一日、特に食事中、食事後の様子よく観察することと変化が起きた時には敏速に保護者と主治医に連絡をとり、適切な対応ができるように計画、配慮し取り組みました。本児への保育は担任が主に行い、早朝・延長保育では、全職員も関わりました。本児の様子は、少しでも変化があれば、事務室に連絡をし、対応を検討するなど連携をとりながら取り組みました。アナフィラキシーを起こしてからは食事環境を検討し、よりよい方法に見直していくことをしました。

実際の場面では本児が別室で食事を摂ることで、誤食を防ぐことができました。また職員と一対一のため本児の変化にもすぐに気づくことができました。

職員も本児の食事内容、食材を注意して見るようになり、疑問点を他の職員に声をかけてすぐに確認するなど、職員の意識も高まりました。

今後は、本児が他児と食事を楽しく食べて味わう機会をいつ、どんな状況で行うかということと年齢が上がり職員と一対一で関わることができない状況になった場合にどのように対応していくかが課題です。

(2) 箸の使用に向けて ～箸あそび～

〈2歳児〉

① ねらい

箸を使って給食を食べることにに向けて、箸遊びを通して箸への関心をもつ。


② 活動の実際

● 内容

- * 箸遊びの前段階として指先を使った遊びを行い、握る力や指先を動かす遊びをする。
- * いろいろな素材を工夫して箸遊びを行う。

● 実施記録

月 日	子どもの姿	働きかけと配慮
4月11日 粘土遊び (年間通して)	・保育士の真似をして、ちぎったり丸めようとする。丸めるのはむずかしく、「せんせい おだんごつくつて！」とせがむ子もいる。	・粘土べらを使わず、丸めたり、ちぎったり、こねたりして指先を使ってあそぶよう子どもに見せたり、手を添えながら遊ぶ。
6月13日 小麦粉粘土遊び	・粘土になるまでの過程を興味津々によく見る。机の上の粉をまくと、手の平で机の上をさすって粉の感触を楽しみ、手が白くなると、それを見て喜ぶ。丸めたり、ちぎったり、保育士と一緒に感触を楽しみながら遊びこむ。	・子どもの前で小麦粉と混ぜて、少しずつ水を加えて、こねて、固まっていく過程を見せる。 ・小麦粉粘土は耳たぶくらいのやわらかさに作る。
6月16日 新聞紙遊び	・最初は自分でやぶくことに抵抗があったようで、なかなかやぶこうとしなかったが、保育士がやぶいて見せると、「びりびり」とやぶき始める。 ・大きな布の上にやぶいた新聞紙をのせて舞い上がらせると「キャーキャー」と歓声を上げて楽しみ、集中してよく遊ぶ。	・保育士が思い切り、「びりびり」とやぶいて見せる。 ・保育士が室内中の新聞を集めて布の上ののせて舞い上がらせて一緒に楽しむ。 ・新聞紙を丸めてボールにし玉入れをして遊ぶよう発展させてみる。
7月12日 スライム	・手にくっつくことに驚き、遊び方に困っていたが、子どもたち同士でスライムをとってあげたりしているうちに自然と笑顔がでてきてよく遊ぶ。 ・ぼろぼろの形態のスライムをテーブルの上に集めてくっつけたり、冷たいスライムを肌につけたりして感触を楽しむ。 ・粘土べらで細かく切ったり、手で伸ばしてひも状にしたりして遊ぶ。	・スライムの感触に苦手な子どもには、少しずつ慣れるよう配慮する。 ・粘土べらも準備し、手や指を使って遊べるよう働きかける。
9月7日 ボタンはめ遊び	・フェルトに大きいボタンがついた手作りのボタン遊びで遊ぶ。1つ1つつけて電車の見立てて数名で遊んだり、輪につなげて頭にはめたりして楽しむ。	・つなげて遊ぶと楽しいことをやってみせて伝えていく。
10月19日 くるみにぎり	・くるみを見ると、「梅干しの種みたいだね」と会話をしながらゴツゴツした感触を楽しむ。	・くるみは硬いため手の平全体で握るようになっている。
10月24日から 室内コーナー遊びの中	・気に入った箸箱から箸を出す。箸箱から箸を出すことは容易に行うが、しまうのは難しいので手伝ってもらい入れる。 ・最初は自分の持ちやすいように持って自由にはさんでみる。 ・「フォークと同じように3本指で持つように」と話すと、「こう?」と意識して持つ子もいる。 ・箸が安定しないが、一生懸命つまもうとする。中には両方の手で箸を1本ずつ持ってしまおう子もいる。どの子も集中してよく遊ぶ。	・箸は箸箱に入れて、2種類用意をする。 ・箸ではさむものは、素材、形、大きさの違うものを用意し、それぞれ箱につめて「おせち料理」に見立てて興味をもたせるようにする。 《はさむもの》 ◇紐を結んだもの(こんぶ) ◇スポンジを大小に切ったもの ◇発泡スチロール ◇くるみ ・3本指(親指、人差し指、中指)で持つのに「ピストルのバーンバーンの形にしてみよう」と言葉かけをして保育士が箸を持ってみせる。子どもに持たせ介助する。

月 日	子どもの姿	働きかけと配慮
箸の練習遊び開始	<ul style="list-style-type: none"> ・練習を重ねるごとに「やりたい！」という気持ちが強く、順番を待ちきれない子も見られる。 ・スポンジは柔らかくはさみやすいので素早くできる子が増える。 ・くるみは握るだけではなく箸ではさめるようになった子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くるみは重くはさみにくいできた時はほめてあげ喜びを共感する。 ・箸遊びに興味関心がもてるように、プレートや皿を用意し、ごっこ遊びとして楽しめるようにする。 ・はしの練習遊びに消極的な子に対しては、声かけを行い、誘う。

③ 評価・反省

2歳児で箸の使用を開始するには、箸を使用する以前にスプーンとフォークがしっかり持って食べることが基本であると思います。食事の中で保育士が言葉かけをしながら一緒に食べ、食材や箸に興味をもてるようにすることが大切だと考えています。

箸の使用をすすめていくにおいて、手や指先の遊びを十分に経験してから箸遊びを開始すると、スムーズにできることがわかりました。また、「箸ではさむこと」は上手にできるようになりますが、「箸にのせる」「箸で切る」「箸で刺す」までにはいたらず、箸遊びの素材の工夫が今後必要と思われる。

「箸の使用に向けた取り組み」は、2歳児クラスの年間目標のひとつであります。(資料3参照)クラスの担任が中心になって取り組み、保護者へも4月の懇談会で目標を伝え、家庭でも取り組んでもらえるよう伝え、協力をお願いしました。クラス内掲示板に「箸の正しい持ち方や箸選び方」を掲示し知らせました。

実際に家庭で箸を使用している子どもは、箸の使い方や持ち方が上手で、上手に食べることができていることから、保育園と家庭とが一緒に取り組んでいくことが大切であると思います。

(3) いのちの成り立ちを通して考える総合的な食育

〈5歳児〉

① ねらい

栽培活動を通して、いのちの成り立ちを考え、収穫物の変化を体験する。

② 活動の実際

● 内容

あさがおの栽培活動の中で、あさがおの世話や育つ様子を観察し、収穫物で遊び、制作活動(あさがおのリース)をする。

● 実施記録

月 日	子どもの姿	働きかけと配慮
5月29日 あさがおの種まき	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の鉢に小石と土を入れ、指先で穴をあけた所に、種をまく。 ・水やりは自分の分だけではなく友だちの分も水やりをし、忘れていることを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水やりの大切さを伝える。
6月5日 あさがおの発芽	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりのあさがおの発芽が始まると、自分のそのときを待ち、成長を心待ちにするようになってきた。 ・図鑑を見ながら、同じように葉が変化していく様子を興味深く観察し、感じていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑など観察に興味をもてるように身近に置いておく。
7月24日 支柱を立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの背が高くなり、横からつるができたことに気づく。 ・支柱を組み立て、鉢にさす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの変化に気づかせよう言葉かけをする。 ・支柱を立てる補助をする。